

## 第3期生駒市食育推進計画 第1回策定懇話会 記録

### 【開催概要】

○日 時：平成29年9月28日（木）14：00～16：00

○場 所：生駒市メディカルセンター 3階研修室

○出席者：

天野信子 松井英人 佐々木昇 吉川萌 藤尾庸子 岡島保弘 荻原佐久雄 井上良作 清水綾  
山中治郎 糸田恵美子 諸熊えい子 牧香奈子 溝口雅代 蒔崎忠雄

[事務局]

影林洋一福祉健康部長 増田剛一次長

健康課：吉村智恵 川島光 大谷幸代 村田陽子 松名美幸 山崎悟 山田憲司

委託業者：(株)地域計画建築研究所（アルパック）大阪事務所 武藤健司 片山麻衣

### 【議題】

- (1) 参加者紹介・座長選出
- (2) 第3期計画の策定スケジュール
- (3) 生駒市食育に関する現況
- (4) 意見交換
- (5) 次回の日程・今後の予定など

### 【議事内容】

#### 1. 開会

開会にあたり、影林部長が挨拶を行った。

○影林洋一（生駒市福祉健康部長）

これまでの食育計画は、第1期計画の策定から10年、第2期計画策定から5年が経過した。今回の第3期計画は平成30～34年度の5年間としている。健康を目指していく上で、体の健康も心の健康も重要なものである。計画策定までの半年間、皆様の貴重なご意見を伺いたい。

#### 2. 議事

##### (1) 参加者紹介・座長選出

事務局より、配布資料の説明・参加者紹介後、座長選出を行い、委員による互選により甲南女子大学の天野氏を選任した。また、事務局より懇話会公開に関する意向確認を行い、公開とすることを決定した。

##### (2) 第3期計画の策定スケジュール

事務局より、資料2の説明を行った。

### (3) 生駒市食育に関する現況

事務局より、資料3、参考資料1、2の説明を行った。

#### ○諸熊氏（生駒市環境基本計画推進会議）

子供の学力と食生活に関連性があると聞いたことがあるが、生駒市ではそのような調査は行っているか。また、スポーツの実施状況によって食生活が変わると思うが、そのことについての調査は行っているか。

#### ○事務局

子どもの学力と食生活の関連については、教育委員会が小学6年生と中学3年生を対象に調査を行っており、ホームページで公開する予定である。また、スポーツとの関連調査は、現在のところ行っていない。

#### ○蒔崎氏（市民）

市民アンケート結果の速報値と確定値にはどのような違いがあるのか。

#### ○事務局

速報値は8月30日まで返送があった分の数値である。確定値の段階では8月30日以降の追加データを含めたものとなり、数値も若干変わってくる。

#### ○溝口氏（市民）

アンケート対象者の選定方法を教えてほしい。

#### ○事務局

対象者の選定は、住民基本台帳から無作為抽出で行い、郵送により配布回収を行っている。小学生、中高生は本人が回答しており、乳幼児はその保護者が回答している。

#### ○溝口氏（市民）

アンケートが返ってこない家庭は、アンケートが返ってくる家庭に比べ、きちんと朝食を食べていない可能性が考えられる。また、朝食の内容も親子で認識が異なっている可能性もある。例えば、学校で生徒にアンケートを配布すれば、結果は違ってくるように思う。

### (4) 意見交換

事務局より、資料4の説明を行い、意見交換を行った。

#### ○松井氏（（一社）生駒市医師会）

取組テーマの1「若い世代を中心とした食育の推進」、テーマ3「健康寿命の延伸につながる食育の推進」は、栄養相談等で取り組んでいきたいが、その他の食育関連の取組については医療の立場からの関わりが難しい。子どもの成長・発育は、まずは保護者、家族への食育の周知が必要である。

#### ○佐々木氏（生駒市歯科医師会）

県の歯科医師会で活動を行っており、10月には「なら歯と口腔の健康づくりフェスティバル」を開催予定である。歯が残っていれば寿命が延びるわけではないが、クオリティ・オブ・ライフの観点から8020運動は大切だと考える。食育に関する取組は、お話があれば関連団体と連携し、推進したい。

#### ○吉川氏（奈良県郡山保健所）

親子減塩教室、慢性閉塞性肺疾患（COPD）等の予防講演会を開催しており、今後は野菜摂取の

普及を目指し、「まほろば元気百歳プロジェクト」を実施予定である。

現在、県の食育推進計画も改定に向けて検討しており、骨子内容として、「1. 健康づくり推進のための食育、2. 未来を担う子どもの食育、3. 食の未来の向上のための食育、4. 地域みんなで支え合う食育」を掲げている。

○藤尾氏（生駒市健康づくり推進員連絡協議会）

今は何でも手に入る時代である一方で、貧困の問題もある。食育は大切であるが、今の時代に対応した活動をする必要があり、色々な団体と連携しながら推進したい。

○岡島氏（生駒市PTA協議会）

PTAは親子の絆、親どうしのつながりを持っているが、任期が短いため継続した活動が難しい。給食を活用して食育に取り組んでいる学校もあると聞いている。学年が上がるにつれて、朝食の欠食が増加していると感じており、PTAからも食の大切さを周知したい。

○荻原氏（生駒商工会議所）

個人の活動ではあるが、家庭では1週間に1日、曜日を決めて家族そろって食事をしようとしている。また、小学校でソフトボールの外部コーチを務めており、保護者に対し、試合の時はできるだけ手作りのお弁当を用意してもらおうようお願いしている。約半分の子どもが手作りのお弁当を持ってきている。

○井上氏（奈良県農業協同組合（生駒支店））

年間約70品目の野菜を栽培しており、なるべく無農薬で栽培したいと思っているが、難しい時期もある。アトピーやぜんそくの子どもの持つ保護者は、無農薬のものを好んで買って行かれる。虫がついている野菜、虫が食べた穴が開いた葉がある野菜は安全でおいしいが、若い人は敬遠される。食に対する正しい知識を伝える必要がある。

○清水氏（いこま育児ネット）

月に1回、育児サークルリーダーが集まり、アレルギーへの注意喚起、親子で参加できる料理教室等を開催している。本団体では様々なイベントを開催しており、それらのイベントに食育啓発を含めるなど、各団体と連携しながら進めたい。

○山中氏（生駒市校長会）

給食センターでは、例えば日本各地の雑煮特集、地産地消の推進等に取り組んでいる。各学校では、じゃがいもの植栽、自分たちで作ったお米でおにぎりを作って市民にふるまうなど、学校単位で独自性を持った食育活動に取り組んでいる。

子どもの朝食と学力の関係は、全国学力・学習状況調査の中で朝食の有無についての項目がある。朝食時に主食だけを食べている子どもは少なくはなく、バランスが悪いことが課題であると考えている。

○糸田氏（生駒市保育会）

食育の取組は各園に任されており、担当している保育園では毎月19日（食育の日）に食育をテーマにした紙芝居や伝統行事での食に触れる体験（例えば、お餅つきでは蒸したもち米の香りや味を教えるなど）等を実施している。

地域との交流では、老人会に手伝っていただき、一緒に芋を育てる活動等を行っている。子ども達が保育園で経験したことを家で話すことで、保護者の食の知識を増やすことにもつながっている。

給食の残食は保育園ではほぼなく、無理やり食べさせるのではなく、まずはおいしく食べるこ

とに重点を置いている。

○諸熊氏（生駒市環境基本計画推進会議）

環境フェスティバル等のイベント時に、食品ロス削減の啓発を行っている。昨年度は、エコキッズスクールで出前授業を実施し、子ども達は世界の飢餓についてとても反応を示していた。贅沢に慣れている日本では、「食べ物を残すことはもったいない」と単に話すだけでは伝わらず、世界の状況を写真とともに伝える方がよい。学校との連携を大切にしながら、食育活動に取り組みたい。

○牧氏（市民）

予防医学の観点から食育に取り組んでおり、アレルギーやアトピー、味覚形成などについての講座等を開催している。インターネットの情報で何が本当なのかを迷っている母親が多く、そういった方が講座によく参加している。一方で、働く母親は夜にインターネットで情報を得ている。ブログ等で食に関する正しい情報発信を継続して行いたい。

○溝口氏（市民）

去年から子ども食堂を実施しており、大豆を育て、収穫して味噌を作るという「究極のスローフード」にも挑戦している。おなかが満腹にならないと、人の話を聞くことは難しいため、まずは子どものおなかを満腹にしたい。子ども達が土を付いている野菜本来の姿を見て、体にいい食材を選ぶことができるようになれば良いと思っている。

子ども食堂は現在、本当に支援が必要な人に情報が行き渡っていない。各団体との連携を通して、情報発信に力を貸してほしい。

○蒔崎氏（市民）

自分で夕食を作る男性高齢者もいるが、何も作らない人や作れない人も多く、男性高齢者に対する食育について取り組みたい。調理する人、しない人それぞれの理由を知りたいと考えている。

○天野座長（甲南女子大学）

様々な意見ありがとうございました。時間の都合上、今日はこれで意見交換は終わりにしたい。第3期計画では、「実践の場を広げる」が大きなテーマである。次の段階では、具体的な取組案を出すことが重要になってくるため、今回は現段階での皆様の情報や活動を共有させていただいた。次回は、具体的な取組案を出していただくためのアイデア記入シートの配布等を検討している。

（5）次回の日程・今後の予定など

次回は10月26日（木）を開催予定とし、時間・場所は今回と同じとする。また、次期計画での取組案などを教えていただけるよう、事前にシートを配布することを考えている。

以上